

言語文化学部・国際社会学部・国際日本学部
2023 年度前期日程入学試験問題
地理歴史（日本史）
正解・配点・解答例（100 点満点）

1 〔60点〕 単答 5点×8 + 論述 20点

問1 電気洗濯機〔5点〕

問2 減反政策〔5点〕

問3 三池炭鉱〔5点〕

問4 核家族〔5点〕

問5 関税及び貿易に関する一般協定（GATTも可）〔5点〕

問6 プラザ合意〔5点〕

問7 四日市ぜんそく〔5点〕

問8 過疎化〔5点〕

問9〔20点〕

【解答例】

1950年代から1960年代にかけ、安価な石油の安定的な確保が可能となったため、石炭から石油へのエネルギー革命が進んだ。石油使用の増大は、高度経済成長を可能とした一方で、石油化学コンビナート周辺の公害も引き起こした。結局、日本社会が石油の使用を見直す直接のきっかけとなったのは、公害ではなく、1970年代に起きた二度の石油危機であった。石油価格の大幅な上昇によって経営が圧迫された企業は、人員削減を行うとともに省エネルギーに努めた。その結果、エネルギー源のなかで石油の占める割合は低下したものの、それに代わって原子力の割合が上昇していった。1990年代以降、地球温暖化が国際的な危機として認識され始めると、石油の使用が再び問題視されるようになった。しかし、東日本大震災にともなって発生した福島第一原子力発電所の事故を受け、原子力の安全性に対する信頼も揺らいだため、現在、日本のエネルギー政策が問い直されている。（397字）

2 〔40点〕 単答 5点×6 + 論述 10点

問1 空海（弘法大師）〔5点〕

問2 藍〔5点〕

問3 a 富山県〔5点〕 b 五人組〔5点〕

問4 非人〔5点〕

問5 旅籠屋〔5点〕

問6〔10点〕

【解答例】

江戸時代の人々は、旅行等の時に旦那寺や村役人等が発行する往来手形を携行する必要があった。宗門改帳からはずれた無宿人は、旅先で旅籠屋に泊まることもできず、病気の場合も村の番人等の介抱を受けるしかなかった。（100字）